

“ヒヤリ! ハット!の法則”等への克服が事故を減少・撲滅する!?

令和4年10月27日

九州北部小型船安全協会

会長 富賀見栄一

この法則は、アメリカの損害保険会社の技術調査官の H・W ハインリッヒ氏が労働災害事故の統計学的調査結果を発表したものであり、「ハインリッヒの法則」と言われていますが、日本では通称“ヒヤリ! ハット! の法則”と言われている。簡単に言えば「被害の重大事故1つの背景には、29の軽微な事故が有り、そのまた背景にはヒヤリした、ハットした事実が300事例ある。」という法則です。(1:29:300という数字になる法則です。)

この法則がプレジャーボート海難事故にも該当するとすれば、その事故を減少させるためには、このヒヤリ! ハット!した出来事を常に意識することが重大事故・軽微な事故を減らし、この意識を記憶し、この事を無くすことを実践すれば、事故を撲滅する出来ることになる筈です。

また、この法則とは話が多少違いますが、鹿児島県の奄美群島では毒蛇のハブが20数万匹生息していると言われています。地元の人々は日々の暮らしの中で、ハブ対策を強いられています。対策の第一は「ハブの居る所には近づくな! ハブより先にハブを見つけろ!」このことを守ることが唯一の対策と地元の老人達は言います。このことは、ハブを危険なものと考えれば、“危険には近づくな! 危険なことはするな! その危険に素早く気づけ!”という言葉ではないか? 専門分的言葉としては、危険予知能力を研ぎ覚ませよという言葉になりますが、この老人達の言葉には事故を防ぎ、撲滅する、昔からの知恵が詰まっており、肝に銘じるべき言葉ではないでしょうか?